

メイ琴平～ハープで世界を旅する～⑦

モロッコ王国

～歴史や文化、伝統から生まれる「光の王国」～

一般社団法人 May Music Office 代表理事 メイ 琴平



琴平メイ（May Kotohira）ハープ奏者

一般社団法人 May Music Office 代表理事。

福岡教育大学在学中にオーストラリアキャンベラ大学で文化人類学、社会学を専攻。

大学卒業後、青年海外協力隊員として南米パラグアイで女性の自立支援のプログラムに携わる。パラグアイの楽器ハープ（アルパ）に出会う。

現在、音楽を通して国際交流をテーマにラジオパーソナリティーや雑誌の寄稿を行うなど様々な活動を行う。

文化庁採択コンサート「音楽で世界を旅するコンサート」を企画主催。

全国の小中高等学校での国際理解ハープコンサートで、文化の多様性を子供達に伝える。

献できることができたならと自治体や観光協会と一緒に市の日本庭園コンサートを行いました。

街の古民家や歴史的な建物を利用してコンサートを開き、街をテーマにコンサートが出来たら、地元の人よりも地域に愛着が持つことができ、観光客へのPRにも繋がっていくことができると考えます。

音楽を通して国際交流をテーマに国や地域を繋げていけたらと考えます。



May Music Office youtube

音楽を通して国際交流をテーマに全国の学校コンサート、文化庁採択事業として国をテーマにした音楽で世界を旅するコンサート、経産省の音楽を通して日本文化を海外に発信する日本庭園コンサートを行っています。

世界を旅するコンサートは国をテーマにその国の紹介を入れて、その国の音楽を楽しむレクチャーコンサートです。

国の歴史や日本との関係、観光の紹介を大使館の職員にしてもらい、

その国の民族楽器コンサートを通して民族衣装や楽器や そのリズムを通して国の文化を感じられる国際交流ができるコンサートです。

海外と日本との繋がりを知り、相手の民族性を理解することで自らの民族性により理解を深めることができ、多様な価値観を認める社会への実現に繋がると考えます。

写真はモンゴル編とエクアドル編になります。

また、音楽が地域と繋がって、コンサートを通して地域社会に貢

さて、今回はモロッコを紹介します。世界遺産としてフェズやマラケシュの旧市街が有名です。

また、タジンやクスクスなど魅力的なモロッコ料理があります。以下の記事はラシャッド ブフラル大使および、大使補佐の大和田恭代さんの原稿を筆者が編集したものです。



アフリカ編



エクアドル編

モロッコ王国

モロッコ王国は長い歴史を誇る国であり、何世紀にもわたる伝統を築いてきました。モロッコのアイデンティティは、文化的に受け継がれてきたホスピタリティの精神と寛大さに根差しています。モロッコにおける文化は活発に存在するものとして、習慣、祝祭、儀式、そして日常生活にも現れています。

モロッコ王国は地理的に戦略的な場所、すなわち北と南が交差し、そして西側と東側の間に位置しています。モロッコの地理と歴史、そして王国が享受している強い安定性により、モロッコはヨーロッパとアフリカ、アメリカ大陸とユーラシア大陸を結ぶ要となっています。

モロッコの概要

モロッコは北アフリカに位置し、北は地中海、西は大西洋に面しています。地中海と大西洋を結ぶジブラルタル海峡がモロッコとスペインを隔てる距離はわずか14kmです。

3,600 km の海岸線、4つの山脈、そして松林、コルク櫟の森（マアムーラの森は世界最大）、砂漠、平原など、多岐にわたる景観が存在するモロッコは、訪れる場所の多様性を提供するだけではありません。あらゆる国からのあらゆる世代の方々が楽しむことのできる、さまざまな物語をもつ歴史のおよび文化的名所が存在します。



マラケシュのゴルフ場、背景はアトラス山脈



大西洋に面した町 エッサウィラ

このような多様性に恵まれ、リフ山脈の森や、トゥブカル山（標



国旗

高 4,167m) のあるアフリカで2番目に高いアトラス山脈でのハイキング、南部の海岸ダフラでのカイトサーフィン、イフランの町近くにあるウケイムデンの山々でのスキー、そしてゴルフにいたるまで、多くのアクティビティを楽しむことができます。タンジェ、カサブランカ、アガディール、シェフシャウエンやエッサウィラなど



町の観光も楽しめます。最も著しい景色の変化を求めている方々は、南部の砂漠をトレッキングすることもできます。

観光資源

日本と同様に、モロッコも王朝の「都」であった都市がよく知られています。都となったのはマラケシュ、フェズ、メクネス、そしてラバトです。

現在の首都はラバトです。一見近代的な都市のように見えますが、ハッサンの塔、古いメディナ、ウダイアのカスバなど、数々の魅力的な歴史的建造物があり、それぞれ、モロッコの歴史の一部と、各時代の王朝の下での成果を示しています。ウダイアのカスバと、1196年にスルタンであったヤクブ・アルマンスールによって建立されたハッサンの塔はいずれも大西洋と、隣接するサレの街を見渡す興味深い場所にあります。サレは17世紀から19世紀にかけて、モロッコの海での栄光に重要な役割を果たした街です。

「オークル（ピンクがかったベージュ）の街」とも呼ばれるマラケシュは、広大なスーク（市場）、バディ宮殿やバヒア宮殿などの歴史的な宮殿、壮麗なクトゥビア モスク、また、活気に満ちたジャマ・エル・フナ（広場）で有名です。16世紀のサード朝のスルタン達の墳墓は、モロッコの建築と歴史の象徴であり、多くの観光客が訪れています。

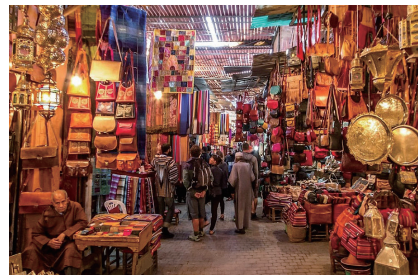
かつての都であったフェズの印象的な建築物は数多くありますが、おそらく最も有名なのは、その大きな皮なめし工場と、世界で最も古い大学のひとつが存在することです。859年に、ある一人の女性によって設立されたアル・カ



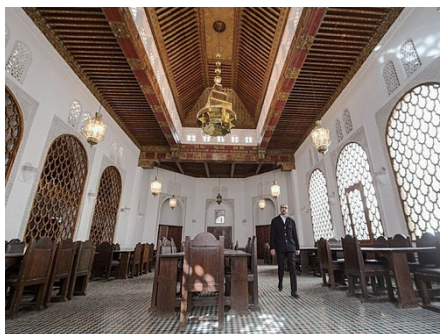
ウダイヤ



ハッサンの塔



マラケシュのフナ広場とスーク



フェズのアル・カラウィーン大学と皮なめし場



ヴォルビリス



メクネス

ラウィーン大学は、アヴェーロエス、アヴェンパス、イブン・ハルドゥーン等、世界の哲学と社会学に名を残す多くの偉大な人物の教育に貢献してきました。

メクネスには、モロッコ全土でも最も印象的なモニュメントのような門のひとつであるバブ・エル・マンスールがあります。この魅力的でリラックスした都を探索する

には馬車に乗るのも最適です。メクネスから足を延ばすと、紀元前3世紀の古代ローマ遺跡、ヴォルビリスの遺跡があります。

モロッコ料理

モロッコは美味しい料理と、世界にも輸出される良質なワインでもよく知られています。伝統的な

モロッコの台所には、お料理に豊かな風味を加えるスパイスがたくさんあります。

小麦は基本的な食材であり、ホブズ（モロッコのパン）、ムセメン、バグリルをはじめとする多くのパンやお菓子が小麦から作られています。

モロッコ料理で最もよく使われる肉は、ラム、マトン、ビーフ、チキンです。沿岸地域にはシーフードや魚が豊富にあり、いわしは特に人気があります。国民的料理ともいえる人気のお料理は、クスクスとタジンです。

モロッコ料理には多種多様なものがありますが、特に重要なお料理として、パスティラ（ミートパイ）、ハリラ（ラマダン中のスープ）、プロシェット（串焼き）なども挙げられます。



クスクス



パスティラ

モロッコの文化はその歴史と人々のつぼですが、どこに行っても、熱いミントティーのグラスが用意されています。ミントティー

で客人をお迎えするのはモロッコホスピタリティであり、伝統を継承するものです。



ミントティー

モロッコでは食事はたんに飲食を楽しむだけではなく、常に家族や社交の場に存在するものであり、平和と対話にもつながるものとされています。何世紀もかけて、非常に具体的なテーブルエチケットが出来上がったのも食事というのが、なにかを達成したり、情報交換をしたり、成長したりする時間としても捉えられているためです。

伝統的な祝祭

モロッコではすべての都市で、習慣を体現するための多くの文化的、宗教的祝祭が開催されます。

最も人気のある祝祭は、ユネスコの無形文化遺産に2008年から登録されたタンタンのお祭り、2012年に登録されたセフルーのさくらんぼまつり、ケラア・ムグーナのローズ・フェスティバル、エッサウィラのグナワ・フェスティバル（モロッコの伝統音楽であるグナワは2019年にユネスコの無形文化遺産に登録）などです。また、フェズの世界宗教音楽祭は、文明の対話に貢献している最も優れた文化イベントのひとつとして国連に認

められています。

これらすべてのモロッコの祝祭は、世界中から多くの訪問客を魅了し、最終的にはこのようなフェスティバルをそれぞれの回ごとに作り上げる参加者となることから、モロッコの文化イベントは真の国際遺産になりました。



タンタンの祭



エル・ジャディーダのファンタジア



グナワ音楽祭

全国各地の精巧な建築物

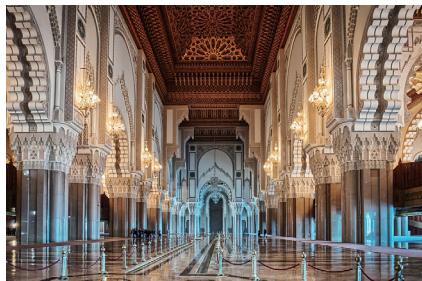
多くのモロッコ建築の素晴らしさは、国の豊かな文化遺産を反映しています。

モロッコには、印象的なモスク、古典的なリヤド、明るい宮殿、美しい宗教学問所など、賞賛に値する壮大な建造物が数多くあります。そのような建造物は各地に存在していますので、都であった都市で

は簡単に訪れることができます。

多くの建造物には、典型的なタイル細工であるゼリージュ、木工品、石膏細工、華やかな彫刻が施されています。見慣れていないくても中東や古代ビザンチン帝国のいくつかの建築との類似性を見つけることができますが、詳しく見ていくとモロッコの建築遺産の特異性が明らかになるでしょう。モロッコではアマジグ、アフリカ、イスラム、そして地中海地域の影響が融合されています。

カサブランカのハッサン 2 世モスク、マラケシュのサード朝の墳墓、タンジェのグランドモスク、フェズのアル・カラウィーンのもスクと大学は、とりわけ見事な建造物です。



ハッサンII モスク 外観(上)と内部(下)

モロッコと日本の関係

日本とモロッコは友好と協力の深い絆を持っており、両国の関係は、モロッコの王室と日本の皇室

との緊密な関係によって特徴付けられます。

さらに、モロッコと日本には、相互理解と対話の強力な基盤となる歴史的、文化的、制度的な類似点があります。おもてなしの心と、伝統と現代性を融合させたいという強い願望は、モロッコと日本の志を同じくするささやかな例として挙げられます。

このような親密さは、モロッコと日本の近代的な関係においても大きな役割を果たし、日本は外国資本として最大の雇用をモロッコで創出しています。また、モロッコと日本は、平和を愛する外交原則を共有しており、人間の安全保障、人材開発、気候変動の影響の緩和など、地球規模の問題の解決に大きく貢献しています。

大使からのメッセージ

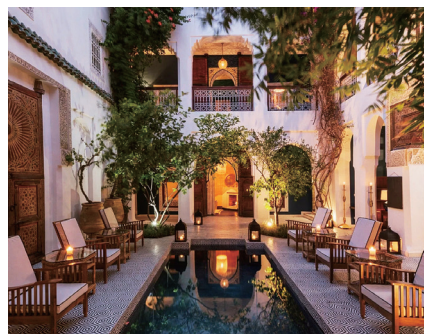
モロッコは「光の王国」です。ふりそそぐ太陽の光だけでなく、その歴史や文化、伝統から生まれる光。

モロッコを旅行すると、訪れるさまざまな史跡、多様な文化遺産の広大さ、料理の複雑さ、風景の豪華さに反映されるこれらの光から逃れることはできません。モロッコの光は、訪問者の心を温める人々のおもてなしの心とやさしさから発するものです。

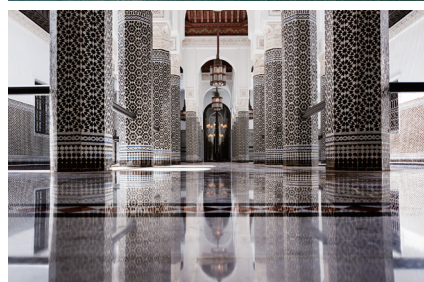
モハメッド六世国王陛下の大使として、日本でモロッコを代表する立場で、私の国の「光」を日本社会と分かち合うことができ、大変光栄に思います。モロッコに興味のある方々のために、岐阜のぎ

ふワールド・ローズガーデンにモロッコ・ガーデンを開設しました。モロッコの建築物や工芸をご覧いただき、モロッコの豊かさを垣間見ることができるでしょう。

日本と同じように伝統と現代性を持ち、安全で特別な国であるモロッコで、日本からの観光客のみなさまは歓迎されます。伝統的なリヤドから高級ホテルまで、幅広い選択肢の中から宿泊施設を見つけ、多くのアクティビティをお楽しみいただくことができます。



リヤド



高級ホテル